

改訂版

あるある

—身近なエピソードから学ぶ—

おや がく

# あおもり親楽プログラム

乳幼児・小学生  
1



青森県教育委員会

## あおもり親楽プログラムの改訂にあたって

家庭は、子どもたちの健やかな育ちの基盤であり、家庭教育は、すべての教育の出発点です。しかしながら、近年、少子化や核家族化、地縁的なつながりの希薄化等により、子育てや家庭教育を支える環境は大きく変化しています。親が祖父母などから子育てを学ぶ機会が減るとともに、地域の支えも弱まるなど、家庭教育を行うことが困難な社会になっているという指摘があります。

このような中で、充実した家庭教育が行われていくためには、個々の家庭だけではなく、行政や学校、支援団体、企業、地域住民など子育てに関わる様々な主体が協力し、一人ひとりの親が子どものよさや個性に気づき、子どもの発達段階に応じた適切な関わりができるように「親の学びと育ち」を支えていくことが課題となっています。

そこで、県教育委員会では、親同士の話し合いを通じて主体的に学び合う学習プログラム「あおもり親楽プログラム」を、平成24年度から対象別（乳幼児・小学生編、中・高校生編、支援者編、特別編、特別編2）に作成し、県内各地の研修会等で活用いただいております。

今年度は、平成24年度に作成した「あおもり親楽プログラム1～乳幼児・小学生編～」について、社会状況の変化に伴う家庭教育の今日的課題に対応するため、内容を改訂することとしました。改訂にあたっては、プログラム中のエピソードを一層親しみやすい内容に修正したほか、新たなプログラムとしてICT機器使用のルールづくりに関するものを掲載するなど、より活用しやすいプログラムになるよう工夫しております。

このプログラムを乳幼児健診や保育所・幼稚園・学校等での保護者会やPTA研修会、公民館での家庭教育学級など様々な機会に活用いただくことで、子どもとの関わりに新たな気づきが生まれるとともに親同士の支え合いやきずなが深まり、子どもたちの健やかな成長へとつながることを期待します。

結びに、本プログラムの作成に御尽力をいただいた青森県家庭教育支援推進協議会委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

令和3年3月

青森県教育庁

生涯学習課長 葛西 浩一

# 目次

あおもり親楽プログラムの改訂にあたって	1
<b>1 あおもり親楽プログラムについて</b>	3
① あおもり親楽プログラムとは	4
② あおもり親楽プログラムの構成と内容	5
③ あおもり親楽プログラムの流れ	6
④ あおもり親楽プログラムの進め方	7
⑤ あおもり親楽プログラムの使い方	8
<b>2 プログラム</b>	9
乳幼児や小学生を持つ親を対象としたプログラム	
1 ダメったらだめ！～子どもの自我の芽生え～	10
2 笑顔のママでいたいのに！～子育てのイライラとつきあう～	11
3 子ども同士のトラブル、SOS～ルールを教える～	12
4 ケンタ君のあくび～子どもの生活リズム～	13
5 わが子も大きくなりました！～子育て年表を作ろう～	14
6 家族の一員としての役割を持たせよう～自立を願うなら、自分のことは自分で～	15
7 いい一日は、いい「おはよう」から！～家庭でのあいさつ～	16
8 わたしの話、聞いてる？～親子の会話～	17
9 わが子がイキイキしてる！～体験活動のススメ～	18
10 わが子の小さな勇気～思いやりのある子に育てるには？～	19
11 タブレット、どう使う？～ICT機器使用のルール～	20
<b>3 手引き（展開例）</b>	21
<b>4 資料</b>	35
・ 資料	36
・ アイスブレイクのいろいろ	47
・ 手法のいろいろ	49
・ 特別な教育的支援等に関する県内の相談窓口について	50
<b>5 アンケート</b>	51
(あおもり親楽プログラムを活用した感想をお知らせください)	

本書で使う用語

- ・ おやがく親楽プログラム…親同士が学び、気持ちを楽しになり、子育てが楽しくなる学習プログラムの意。
- ・ 親…家庭において子に教育を行う者、保護者を含む。